

うんちく「鍾馗様」

まごひち瓦版

ライフスタイルに関する情報をもっと知りたい

貴方にお届けする地元企業発行のかわら版です

今回は屋根に乗せられた
鍾馗（しょうき）像にまつ
わる話をご紹介します。

鍾馗様の伝説は、古代中国「唐」の時代にさかのぼります。当時終南山という地に鍾馗という青年が住ん

でいました。彼は高級官吏となるべく都へ出て、科挙試験を受け見事トップ合格し「状元」という称号を受けます。ところが、髭面で大男の彼は人相がとっても悪かった為に、謁見した6代皇帝玄宗に怖がられ、状元の称号を取り消されてしまします。絶望した鍾馗は自殺してしまうのです。

※科学

隋・清の時代まで行われた
官僚登用試験のこと

その後、玄宗皇帝はマリアにかかり、病の床につきます。高熱に浮かされる中で皇帝は、自分に取り憑く多くの悪鬼を髭面の大男が現れて退治する夢を見ます。皇帝が夢の中で

「お前は誰だ」と尋ねると、自分はあの鍾馗だと言うのです。

「自分は官吏の試験に落ちて絶望して自殺したが、手厚く葬られたのでその恩に報いるため、天下国家の災いを除くことに執心しよう」と誓いを立てました。」と述べます。

夢から覚め病氣が全快した玄宗皇帝は、自分の短慮を深く後悔し、画家を呼ぶと夢で見た鍾馗を描かせました。

鍾馗が鬼を退治し帝の病が癒えたという話は、またたく間に国中に広まり、髭面の鍾馗様は、魔除け・疫病除け・受験の神様として祀られるようになりました。

この鍾馗信仰は平安時代には日本へ伝わり、室町・江戸時代にかけて多くの絵師により描かれました。

平安時代には、

災厄や邪氣、鬼などを追
い払うため、平面の札に鍾
馱の絵を描いて家の戸に
貼っていたと言われている
す。

室町時代には、
陶器のものが作られたよ
うです。

歌川国芳画『鍾馗』



戦国時代には、

本多忠勝や前田利家といつた名だたる武将たちが鍾馗を旗印に用いたと伝わっています。これは鍾馗の勝機の音が同じで縁起が良いとされたようです。

江戸時代には、
・ 疱瘡（ほうそう）／天然痘）除けとして赤い鍾馭様が描かれる。

- ・武家の間で魔除けの幟として掲げられる。
- ・町人文化の中で端午の節句飾りとして定着する。

江戸時代後半には現在の
ような瓦製が作られたた
ようです。これは京都が発
祥とされています。

右手に破魔の剣、左手で八苦を抑えて、周囲を見渡す鍾馗様。大変な努力家です。高級仕官の試験をトップ合格

格するほど頭の良い人。
さらに、手厚く葬られた恩
を忘れない、情深い優しい
人だったのです。

そこから端午の節句では
赤ちゃんを病魔から守り、

頭が良くなるようにと受験の守り神として鍾馗様を飾るようになったということ

京都での鍾馗様

昔、京都の三条に薬屋が新しく店を構え、大きくて立派な鬼瓦を葺きました。するとお向かいの奥さんが原因不明の病に倒れてしまいます。病を治そうと原因を探ると、薬屋の立派な鬼瓦により跳ね返った悪いものが向いの家に入ってしまったからだということがわかりました。

そこで鬼より強い鍾馗様を伏見の瓦屋に作らせ、魔除け・厄除けに据えたところ病が完治したのだとか。それ以降、京都では鬼瓦の対面に鍾馗さんを据えるようになったようです。

『向かいの家が鍾馗さんを
上げると、文句は言わず
黙って同じように自分の家

にも鍾馗さんを上げる』といういかにも京都人的な性格が鍾馗飾りを増やした原因のようです。

向かいの家にはじかれた邪気を払うために置くものを「お向かい鍾馗さん」と言い、設置する際には、向

かい合わないように、にらみ合わないようにというのが暗黙のルールだそうです。他にも微笑み返しとしての「おたふく」を対面に据える場合もあるようです。



寺院の美しい屋根には立派な鬼瓦が複数個のせられていきます。鬼瓦によつて払われた邪氣が降りかからないようにするため、周囲の家は「鍾馗様」を上げるという習慣があつたそうです。鍾馗様はお寺やお墓などににらみを利かせるように、顔を向けて飾られているのだそうです。

古い町並みやお寺の多い地域では今も沢山の鍾馗様を見る事ができます。新建材の住宅屋根やスチール製エクステリアの塀には見ることが出来なくなっていますが、涼しくなって散策向きの気候になったら古い町並みが残る地域で町探検をしてみるのはいかがでしょう？

日本国内で一番最初に世界遺産に登録された法隆寺周辺をはじめ、斑鳩町や県内の風致地区には沢山の鍾馗像が飾られている屋根や塀があるそうです。